

座右の書から思い出の本まで、リレー形式でつなく読書案内。

玉川で教える先生方に「この1冊！」を紹介していただきます。

今
月
は

文学部 中嶋真美先生

過酷な子どもの現実から アフリカの今を知り 世界を見る目を養う



『子どもたちのアフリカ
〈忘れられた大陸〉に希望の架け橋を』

石 弘之 著
● 岩波書店

みなさんは、「アフリカ」にどんなイメージを持たれているだろうか。野生生物を鑑賞するサファリツアーやアフリカ最高峰のキリマンジャロ、飛び跳ねるマサイ族の人々、中には美味しいコーヒーをイメージする人もいるだろう。ユネスコ世界遺産も数多くあり、観光にはうってつけのロケーションも多い。その一方で、世界が立ち向かうべき問題も同じ大地に数多く存在する（なお、ここで言う「アフリカ」とは、地中海沿岸諸国を除くサハラ砂漠以南アフリカ諸国を指している）。

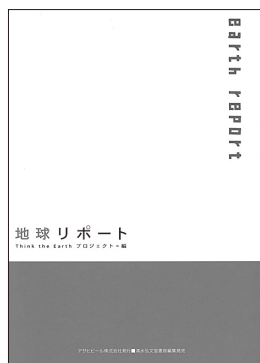
本書は私の好きな1冊だが、決して楽しい本ではない。読むと暗く悲しい気持ちになるかもしれない。しかし同時に、世界の現状を実感し、自分にできる

国際協力とは何かを考えずにはいられなくなるのも事実だ。

著者が焦点を当てるのは、アフリカの子どもたちの今である。その多くは公私を問わず十分なサポートが得られていない。それどころか、エイズ孤児、少年兵、児童労働など、子どもが犠牲になる場面は多く、その解決は一筋縄ではいかないのが実情である。

「国際化」「グローバル化」と言うのは簡単だが、本当の意味で世界を理解するためには、今生きている世界を自分の目でしっかり見つめ直す必要があるのではないだろうか。自分で確かめられることには限りがあるが、少なくとも本書は世界を見る目を養い、世界の今を知るために十分役立つであろう。

これもおすすめ



『地球レポート』
Think the Earth プロジェクト編／清水弘文堂書房
● 「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマに、世界各地の取り組みを紹介。エネルギー、食、旅、農業など様々な角度から世界を見ることができる。環境や社会問題を意識するのに役立つ1冊。



『おしゃれなエコが世界を救う 女社長のフェアトレード奮闘記』
サフィア・ミニー著／日経BP社
● 著者は日本におけるフェアトレード・ビジネス推進の草分け的存在。日本では認知度の低かったフェアトレードを普及させるための奮闘記から、きっと行動する勇気もらえるだろう。